

外国人を雇用する事業主のみなさまへ

結核にご注意ください

結核は今でも毎年約1万人以上の新しい患者が発生し、約2千人が亡くなる、我が国の主要な感染症です。茨城県でも毎年約300人が発病しています。

近年は、結核患者に占める外国人の割合が増加し、特に働き盛りの20～40代で多くみられます。2021年には、20代の新登録結核患者数のうち7割以上が外国出生者となりました。

結核は早期に発見されれば薬がよく効き早く治りますが、発見が遅れると症状が重症化するばかりでなく、周囲の人に感染させてしまうこともあります。

従業員の健康に留意し、気になる症状があれば、早めに医療機関を受診させましょう。また、健康診断で早期発見に努めましょう。

結核の症状



長引く咳、たん



体のだるさ



微熱が続く



体重減少



胸の痛み

初期症状はカゼと似ているため、見過ごされがちです。

せきや痰(たん)が2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

感染経路

結核が進行すると、咳やくしゃみなどによって、空気中に結核菌が飛び散り、これを吸い込むと周りの人に感染が広がります。

換気が悪く人が密集するような場所では感染の危険性が高まります。

結核の治療

結核と診断されても、治療を始めれば1～2ヶ月で周りの人に感染させることはなくなります。一般的な治療期間は6～9ヶ月となります。医師の指示に従って治療を受けましょう。



定期健康診断で
早期発見に努めましょう！